

新大病院たより 和

第38号

(標題：中野雄一 元病院長)

本院の理念・目標

◆理念◆

- ・生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成します

◆目標◆

- ・患者様本位の安全で安心できる医療を提供します
- ・豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成します
- ・研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践します
- ・地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献します
- ・病院運営の適正化と効率化を促進します

患者様の権利と責任

◆患者様の権利と責任◆

1. 個人の尊厳が尊重され、良質で公平な医療を受けることができます
2. 病状、治療、看護等について十分な説明と情報提供を受けることができます
3. 自分が受ける医療について自分の意思で決めることができます
4. プライバシーが尊重され、医療の過程で得られた個人情報保護されます
5. 医療者と協力し、自らの医療に積極的に参加する責任があります

病院長就任のあいさつ



病院長
内 山 聖

本年 4 月 1 日、病院長に就任いたしました。専門は小児科で、これまで4年間、医学部長を務めてきました。

新潟大学医歯学総合病院は、前身から数えると百有余年の歴史を持ち、新潟県を中心とした地域の特定機能病院として、1. 地域に根ざした、豊かな人間性と高い倫理性を備えた医療人を育成する、2. 患者様本位の安全

で安心な医療を提供し、地域医療を積極的に支援する、3. 高度医療、先進医療を提供する、などの目標を掲げています。医学・歯学分野で、高度で先進的な医療を提供するとともに、医学部・歯学部学生、研修医、医師・歯科医師や各種医療従事者の教育を行い、専門的医療人を育成しています。さらに、臨床や研究面で国際的な水準の維持と向上を目指し、外国人医師、歯科医師、研究者との交流も活発に行っています。毎年、ロシアから数名の医師が内視鏡技術の研修に来院するなど、本院の医療技術の高さは諸外国にも認められています。

本院で行っている先進医療を紹介すると、1) 血液がうまく循環しなくなった下肢に自己の骨髄細胞を移植し、血管新生を促す治療法、2) コンピューター技術を応用し、おし歯治療用の、いわゆる詰め物を削り出す治療法、3) インプラント義歯、4) 微弱な超音波を骨折部に与えることで骨折治癒を促す治療法、5) 歯周組織再生誘導材料を用いる、短時間かつ低侵襲の歯周外科治療法、6) 腹腔鏡下子宮体がん根治手術、などがあげられます。いずれもわが国における最先端の治療・診断法です。

医療体制の一層の強化を目指し、病院再開発計画の第3期工事として、手術部門、放射線部門、高次救命災害治療

センターなどからなる新中央診療棟が昨年秋に完成しました。高次救命災害治療センターは、日本海側初の施設で、重症な救急患者様への対応を使命としています。また、本年4月には母体・胎児集中治療管理室MFICUを含む総合周産期母子医療センターがオープンしました。重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険性が高い母体・胎児に対応する設備とスタッフを備えています。今後、第4期工事として、外来診療棟の建設を予定しています。平成24年に完成予定ですが、この間、来院される皆様には、駐車場の不足等でご迷惑をおかけしますことを申し訳なく思います。

本院の使命は、患者の皆様の期待と信頼に応え、安全、安心、最適な医療を提供することであると肝に銘じています。そのためにも、皆様方からのご意見やご要望を診療に反映させていただき、常に前進を心掛けたいと願っていますので、いつでもご助言いただけると幸いです。



総合周産期母子医療センターのご紹介

平成22年4月1日付で、本院が新潟県から「総合周産期母子医療センター」の指定を受けましたが、これに合わせて、これまでの「周産母子センター」を改め「総合周産期母子医療センター」が発足いたしました。本センターには、何らかの治療が必要な妊婦さん(胎児も含めて)を集中的に管理する母体胎児集中管理ユニット(MFICU)(6床)が新たに設置され、合併症などを伴った新生児(特に急性期)を管理する異常新生児集中管理ユニット(NICU)が従来6床であったものが9床に増床されました。また、NICUの管理を終了したお子様などをケアする継続保育用ユニット(GCU)12床などが整えられており、産婦人科、小児科、小児外科、麻酔科を中心に各科の医師、看護スタッフが連携して運営にあたっています。全国的傾向と同様、新潟県における出生数は減少傾向にありますが、多胎妊娠の増加、妊婦さんの

高齢化などの影響もあり、妊娠中、集中的な管理を必要とする妊婦さんの数、低出生体重で生まれる新生児の数などは増加しています。当センターの特徴として、高次救命災害治療センターをはじめ充実した各診療科との連携により、様々な合併症を持った妊婦さん、新生児の管理が可能であること、出生前診断により合併症を有すると判断された新生児に対する出生直後からの適切な対応が可能であること、各種異常妊娠(妊娠高血圧症候群、胎児発育遅延など)の原因解明、予防的治療などに取り組んでいること、などがあげられます。周産期医療の充実は社会的要請も大きいものですが、県内の他の周産期母子医療センターと連携して、本県における周産期医療の発展に貢献していきたいと考えております。

総合周産期母子医療センター部長 高桑好一

総合周産期母子医療センター



NICU(小児集中治療室)
新生児用呼吸循環監視装置等を配置



GCU(継続保育室)
新生児用呼吸循環監視装置等を配置



MFICU(母体・胎児集中治療管理室)
プライバシーに配慮して準個室ユニットを配置

病院機能評価認定更新について



副院長
(病院機能・医療監視担当)
林 純一

新潟大学医歯学総合病院は、平成11年12月から認定され、平成16年12月に更新された「病院機能評価」が、平成21年12月をもって再び更新認定されたと、平成22年5月に日本医療機能評価機構より通知を受けました。

「病院機能評価」は、病院のランク付けをしたり、いわゆる評判の高い病院や治療成績の良い病院に授与されるものではありません。病院がその診療内容や地域のニーズ等に応じて「より良い病院作り」のため持続的に努力しているか、適切な努力となっているかを多数の審査員が3日間に亘り来院して審査するものです。全国では平成22年6月現在、2563病院(新潟県内では43病院)が認定を受けています。具体的には①病院の役割が明確で運営は適切であるか、サービス改善や地域に開かれた病院として取り組みがあるか、②患者様の権利や安全確保は全

職員が周知・実施しているか、③院内環境は快適か、病める人の療養に適切なサービスがあるか、④診療内容は安全であるとともに業務効率や運営は適切であるか、⑤病める人の病状や意見に即して、多職種の職員が協力して診療する体制になっているか、⑥病院経営や人事管理は適正か、等が審査されます。

ちなみに、平成21年に、本院として特に取り組んだ事項として、がん治療体制の全体的整備、病院内各種表示の見直しと改善、診療にかかわる各種職員の増員・活用の段取り作り、本院としてふさわしいサービス改善へ病院長を先頭とした持続的取り組み強化、などが挙げられます。今後も患者の皆様「よりよい医療」をめざして一層の努力を重ねますので、忌憚のない意見や要望を頂けると幸いです。



肺がんになんたな治療法



生命科学医療センター
ちけんセンター部門 副部長

吉澤 弘久

日本における癌の死因のトップである肺癌の中で、その約80%は非小細胞肺癌と呼ばれる種類です。手術が出来ない状態まで進行した患者様では内科的治療の効果が十分ではないため、より効果の高い治療法が長年求められていました。近年、イレッサと呼ばれるお薬が、特定の遺伝子変異をもつ肺癌に対して特に有効であることが明らかとなりました。その成果をふまえ、東北大学及び新潟大学医歯学総合病院・生命科学医療センター/第二内科 肺癌グループを中心とした研究グループは、癌細胞のこの遺伝子変異の有無を新たな方法で調べ、遺伝子変異があった230名の多くの患者様のご協力の下、イレッサを最初から用いる治療と従来どおりの抗癌剤による化学療法とを比較する大規模な臨床試験を行いました。その結果、イレッサを初めから用いた場合、肺癌が進行す

るまでの期間が化学療法の2倍にまで延ばすことが可能で、患者様の生活の質(quality of life)も明らかに優れていることが判明しました。副作用では、イレッサでの治療で、間質性肺炎と呼ばれる特殊な肺炎を引き起こした患者様が認められ、注意が必要であることが示されましたが、総じて重い副作用の頻度は化学療法よりイレッサで低いことが示されました。この遺伝子変異は、特に日本では女性の肺癌患者様の約3分の2に相当する多くの方で認められる点でも重要です。この成果は、肺癌細胞の遺伝子を調べることにより患者様ごとのオーダーメイド治療の先駆けとなることでも注目され、臨床医学の世界で最も権威ある学術誌「The New England Journal of Medicine」に発表され、世界的にも注目されています。肺癌を治療する上での新たな進歩があった訳ですが、この様により良い医療は患者様の御協力無しには得られない事が最も重要です。換言すれば、今回の新たな進歩の最大の貢献者は、御協力頂いた患者様やご家族であると言う事です。

歯科用CTについて



口腔外科/画像診断・診療室
室長

林 孝文

コーンビームCT(CBCT)は、平成20年に歯科に導入され、今年で2年目になります。CBCTは、通常のCTと異なり、患者様は普通に起きて座った状態で、エックス線が円錐の形で、顔のまわりを10秒弱かかって回りながら撮影します。範囲を絞って撮影すれば、CTよりもかなり被曝が少なく安心して撮影ができます。これまで歯科には、ヘリカル(らせん走査型)CTという、エックス線の軌跡がらせん状を描いて撮影する装置がありました。多くの歯科疾患の診断に役立ってきましたが、CBCTに完全に置き換えることはできません。CBCTは軟組織が主体の疾患には向きませんので、その場合には内科のCTやMRIで対応させていただくことになります。一方、歯やあごの骨などの硬組織は得意であり、狭い範囲に絞って使えば、CTと比較して硬組織の細かい部分が良く見えます。歯科では、治療対象の多くが硬組織ですし、またそれらの非常に細かい構造を診断する必要とすることが多いですので、このような性能は歯科に適していることになります。ただし、さまざまな疾患のおおもとは軟組織にありますので、CBCTを使う場合には、患者様の症状をよく確認して、硬い部分だけを見て重要な疾患を見落とすようなことがないよう、

適切な利用がなされる必要があります。歯科においても画像診断を専門とするスタッフが必要とされるのは、このような装置の限界をよく理解し、画像に現れない部分も経験や勘で補うことで、患者様に不利益が生じないよう、大局をみる視点が求められるからです。最近ますます需要が増している歯科用インプラント治療には、このCBCTは適しています。一般歯科診療所でもインプラント治療の機会は増えていますが、装置を独自に導入することは容易ではありません。でもはやCT診断無しにインプラント治療を行うことはできない情勢となり、高い潜在的なニーズが想定されます。今後は、病院ホームページの充実やオーダーの流れの簡素化などにより、ニーズを掘り起こすとともに撮影依頼に適切に対応し、地域歯科医療に貢献できる体制をさらに整備していきたいと考えています。



～笑いで癒しを～ ピエロが小児科病棟を訪問！

5月14日(金)、NPO法人日本ホスピタル・クラウン協会様のピエロが、小児科病棟を訪問してくださいました。

突然の訪問に最初は驚いた子どもたちも、バルーンアートなど、ピエロのユニークなパフォーマンスに目を輝かせ、病棟中が笑いに包まれました。





病気の基礎知識 9 緩和ケアについて

がん医療の基本的方針は、手術や抗がん剤や放射線によって病気を消す事で、つらい症状を無くしたり軽くしたりするというものです。しかし、「治療効果が出るまでのつらさをなんとかして欲しい」とか「これ以上病気を消す治療は無理だけど、つらいのをなんとかして欲しい」という場合、この方針だけで症状を軽減する事は困難です。そこで、治すという方針と同時に、「今のつらい症状に焦点を当てた治療もします」という方針が必要になります。それが緩和ケアです。その結果、つらい症状で弱っていた体やへこんでいた気持ちが回復して、再び病気に立ち向かえる、あるいは自分の人生を見つめ直す事ができる、それが緩和ケアの目標です。

そうはいっても、病気の進み具合で難しい場合や、患者様やご家族の希望が多種多様である場合もあり、簡単にいかない事も多いです。従って、いろんな職種の医療者（医師、看護師だけでなく）が集まって、患者様やご家族といろんな事を話し合い、優先順位を決めながら必要なサポートを行うという方法をとります。

また、「病気による体や心のつらさ症状があるために、何も出来ない」という「出来ない思考」でなく、「こう

するともう少しこんな事ができるかもしれない」という「出来るかも思考」でつらい状況に対応するやり方も大切にしています。

具体的には、体や気持ちのいろんなつらさ、病気に対しての不安などを患者様やご家族から時間をかけて伺います。そこで、痛い症状があれば必要な効力のあるお薬を利用します。気持ちの落ち込みや不安には、時間をかけてお話を聴いて、必要ならお薬を試してもらう事もあります。また、できるだけ家で過ごしたい方には、お世話してくれる開業医さんや看護師さんの紹介もしています。

そんな事を通じて、できるだけ自分の人生を自分らしく過ごせるように、緩和ケアという医療でサポートできたらいいなと思っています。

緩和ケアチーム
(麻酔科 講師) 岡本 学



外来図書設置について

患者様が診察の待ち時間にご利用いただける図書を、外来棟各階の待合コーナーに設置しました。

この図書は、患者様やそのご家族の方等から本院病棟12階にある「海のみえる図書館」にご寄付頂いたもので、同図書館で重複している図書等を中心に配置させて頂いております。

この書棚の整理、図書の補充業務は、本院でボランティア活動を行って頂いている方々のご協力により運営しています。



ボランティアさん募集

新潟大学病院では、ボランティアさんを募集しています。貴方の「優しさ」をお貸し下さい。

ボランティアさんの
活動内容

<外来玄関ボランティア>

月曜日～金曜日 9時～11時

・診療申込書の記入補助、代筆 ・移動の介助
・病院内の案内 ・自動再診受付機の操作案内

<海のみえる図書館ボランティア>

月曜日～金曜日 10時～13時/13時～16時

・海のみえる図書館の受付、図書の整理等

<お問い合わせ先> 新潟大学医歯学総合病院 総務課 TEL 025-227-2406

職員一同、心よりお待ちしております。

病院寄附金制度 ～あなたのまごころを医療に役立てます。～

本院では、診療環境の充実やよりよい医療の研究・開発のため、民間企業や個人の篤志家の皆様から広く寄附金を受け入れる制度を設けております。

いただきました寄附金は、患者様に快適な療養生活を過ごしていただけるよう病院の環境整備、最新の医療機器の導入、地域医療を担う医療人の育成、医学教育・研究の充実、病院運営の改善などに使用させていただきます。

多くの方が本寄附金制度にご賛同いただきますようお願い申し上げます。

なお、寄附をいただいた寄附金には、税制上の優遇措置があります。

パンフレット（寄附申込書）は、医事課窓口、入退院玄関及び病棟ナースステーションに用意しておりますのでぜひご覧ください。

新大病院たより「和」のバックナンバーは本院ホームページ
(http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/byouin/08_koho.html) をご覧下さい。

発行 新潟大学医歯学総合病院広報委員会

(お問い合わせは総務課総務係 電話 025-227-2407,2408まで)